

い。私の言ふ創造もまた一方から言へば消費であり、また生産でもあるが、それはたゞ經濟活動の形式から見た稱呼であつて、その活動の内容を言したのではない。各人の創造を最大限ならしめよ、といふことを無政府主義經濟學の第一原理たらしめたいと私は考へる。

(二) 中央協同委員會 以上に述べた經濟的協同機構と文化的協同機構と融通機構とは無政府社會を形成する諸機構の素描に過ぎない。今それを詳細に記述する餘白を持たないのは残念であるが、ここに更に唯だ一項目を附加せねばならぬことがある。それは、これ等の諸機構を綜合して一箇獨立の社會たる機能を發揮すべき中央機構である。それは一種の聯絡機關であり、前の融通機構と外交機關とを直屬とする中央協同委員會である。無政府主義は世界的聯合組織が構成せられて始めて完成されるのであるが、日本の如き島國で而も軍備を全廢し戰爭を放棄した純文化國に於ては、獨立して純粹自由社會を樹立し得る可能性は充分にある。それはわれわれ日本

人の恵まれた地點である。

この中央協同委員會は經濟聯合團體と文化聯合團體と融通機構と外交機關とから若干名の委員を選出して構成し、毎年半數づゝ改選する。全部を改選すると事務一切が切斷されるからである。この中央委員會は融通機構や外交機關の意見に基いて時々全社會に向ひ、又は或る團體に向つて勸告し、又は報告する。強權國家の如く命令や指令は決して發しない。外交問題なども専門機關の意見を徵して、この中央委員會が決定する。重大問題は——外交又は國內關係の——經濟・文化兩方面の特に選出せる多數の委員會の決議を必要とすることもある。

## 第二、無政府主義の實現

### 序

さて、これより私は無政府主義の實現方法に就て、極めて簡略に私の考案を述べたいと思ふ。第一に無政府主義は否強權主義であるが故に攻撃的暴力は避けなければならぬ。第二に無政府主義は自由聯合主義であるが故に永い經驗と訓練とを必要とする。第三に思想の確立せられない處には無政府社會は樹立し難きが故に啓蒙・教育の爲事が最も肝要である。今この三點に就て、順次に私の所信を略序しよう。

第一、否強權主義の實行、無政府主義者は強權なき社會でなければ、萬民が自由にして幸福な生活を楽しむことはできないと信ずる。その自由にして平和幸福な社會を齎らす爲に暴力を行使するならば、それは直ちに強權を立てることになる。無政府主義の實現がデマゴグ

や政治家によつて遂行されるものでないことが分るであらう。無政府主義の實現は平和の手段によらなければならぬ。それには無政府主義に眼ざめた者が各々自己の周圍に共和社會を樹立することが第一に必要である。それが漸次に殖民的に擴大されるやうに絶えず努力を續けなければならぬ。その爲には労働組合にも、消費組合にも協同組合にも、機會を得次第加入して行くべきである。殊に農會や村會には積極的に加入して、自己の周圍を無政府思想に感化するやうに努力すべきである。

もろもろの組合や町村會やが、革命の機會に、われわれの勢力内にあることが多ければ多いほど、無政府社會實現の機會も多いのである。クロボトキンはロシア革命に際し、「われわれは革命の洪水に方向を興へるべき溝を用意してゐなかつた」と歎息してゐる。その溝なしには無政府社會は實現されないのである。ボルシェキキのやうに、強權を以て四圍を壓倒し、たゞわが黨の獨裁制を樹立するのなら、可能の機會は幾らでもある。併しそ

れは無政府主義には禁物である。たとへ改良主義的に見ても、現實の町村會や、諸組合やどしどし加入して、細胞的活動を繼續すべきである。或はその爲に周囲の影響に化せられて墮落する向もあるであらう、それは戰爭に負傷者や捕虜を出すことを免れ得ないと同様である。

負傷や捕虜を恐れては戰爭はできない。然し、如何なる方面にも潜入するとは言へ、國會や、政黨に入ることは、殆ど全然意義のないことである。なぜなら無政府主義者が最初に打破し抹殺すべき是等の機關に入ることは、敵陣の前列に加はることで、味方攻撃の先鋒として終るに過ぎぬであらうから。之に反して、地方の諸組合や自治團體は無政府社會建設の第一歩に於ては有用な役割を演じ得る好機構なのである。即ち洪水に方向を與へ得る溝渠となるのである。そしてわれわれが暴力を必要とするのは、この溝渠を敵の破壊から防護する爲に始めて生ずるのである。われわれの自由社會を防護する爲めでもなく、たゞ攻撃的に暴力を行使することは、成功しても強

の爲めには今日より経験を積み、鍛鍊を重ねて行かばならぬ。かうした修練のために必要なのは、諸種の組合にまた諸種の自治體に入つてその運営に参加することである。無政府主義の思想を明確に解得してゐても、この経験と鍛鍊とを缺く時は、政治家・デマゴグに爲てやられる危険が多い。無政府主義者も或る時機には蛇の如く敏くならねばならぬ。右の如き活動は建設活動であつて所謂革命的破壊運動とは異なるが、併し厳しい戦ひである。無政府主義者は攻撃的暴力を用ゐないが故に、その戦ひは一層厳冷を極めることを忘れてはならない。從來の如何なる社會改革も経験したことのない眞の解放運動を達成しようとする無政府主義者が、この位の困難な修練と戦闘とを覺悟すべきは當然である。すべての無政府主義者は皆なこの戦ひの一兵卒となつて、この困難な組織と運営との一翼を擔當すべきである。この實戦は今日も毎日行はれてゐるのである。この點に關してはわれわれにも一種の戦陣訓があつてもよろしからう。自由・協

權政府を樹立することになり、失敗すれば亂世又は敵の強權を残すことになるのである。故にわれわれは先づ自由社會のあらゆる種類の候補團體を準備せねばならぬ。その用意ができなければ無政府革命は成就しない。候補團體には純粹無政府主義的に鍊成されたものも、未熟なものも存在するであらう。未熟な團體でも方向が無政府的であれば同伴して行ける。之を反動的勢力に對して防護することは、些か困難ではあつても、同伴者として又鍊成の候補團體として重用しなければならぬ。かうして準備ができれば、それに従つて暴力を以て防護する必要はより少くなり、失敗の危険性もより少なくなる。

**第二、** 大衆をして自立自營し得るだけの経験と鍛鍊とを積みしむる必要がある。少數指導者が強權を以て、又は脅迫を以て、大衆を引つぱつて行く、強權的革命とは異つて、自由社會の建設には大衆のイニシアチヴが必要である。そして大衆自らその各種團體のイニシアチヴを綜合結成する能力を習得しなければならぬ。同・團争の戦陣訓が自ら成立すべきである。それは現實に即した積極的實踐訓でなくてはならない。そして各自が各地方に各職場に適した自戒自訓であれば最も理想的である。いつかそれが綜合されて一種の公式自治訓ができることもあらう。無政府社會にも規律は嚴存すべきである。規律のないところには社會生活もなく自由生活もあり得ない。無政府社會は無秩序社會の正反對である。眞の秩序、眞の規律は無政府社會に於てのみ可能であつて、強權社會のは偽秩序、偽規律なのである。

**第三、** の實現方法は教育、啓蒙運動の徹底化である。茲に教育といふのは主として青少年に對する啓蒙・鍊成をいひ、啓蒙とは主として壯年老年人に對する場合を指示したのである。無政府社會は單に經濟機構を改めたばかりでは樹立されない。無政府社會は人格尊重の社會である。すべての人が一人前の人間たる自覺を持ち、自ら尊び他人を尊んで協同生活を營む時、始めて無政府社會は成立するのである。この自他人格の尊重といふこと

は、極めて平凡なことからであるが、實際生活に於ては仲々むづかしいことである。少し自分が何かの才能に秀でると直ぐに他人を馬鹿にしたり、無視したりする。平等・自由の社會に於ては、富の誇りも、權勢の誇りも無くなるが、天分才能は尊敬されるので、自由・平等を唱へながら、尙ほこの才能の誇りに躡く場合が多い。それは畢竟するに名譽といふ幻影に迷ふ結果である。人間の持つて生れた無明の結果である。そしてこの無明こそ無政府社會實現に最も大きな障礙となるものである。故にわれわれは人間の持つて生れたこの無明と戦はなければならぬ。無政府主義が單なる社會問題として解決し得ない人生觀に直接する思想系統に屬する所以がここにある。併しここに注意しなければならぬことは、この無明とか幻影とかいふことは、完教家の言ふやうに、單に所謂「悟道」によつて解決される問題ではないことである。われわれは、かうした幻影を脱し、無明を拂ひつゝ、平等の同胞とともに自由の協同社會の建設に邁進しなけ

ればならないのである。

その爲には、われわれは先づ少年兒童の教育訓練から着手せねばなるまい。今日の現實社會に於ては、凡そすべての現象が兒童を非無政府的、非自然的方向に引つぱらうとしてゐる。所謂生存競争が無反省無制限に行はれ、強者の名譽が誇らかに顯揚せられ、デマゴグが讚美せられ、無恥墮落が喝采される今の社會現象は、實に兒童の天眞を腐蝕し破壊する恐るべき勢力となつてゐるのである。今日の兒童は實に十重二十重に敵の包圍軍に圍まれてゐるのだ。われわれは先づこの兒童の防衛から始める必要を痛感する。天才フリーエが先づ幼稚園・少年團から着手して、新しい社會人を造らねばならぬと説いたのは、非常な先見と言はねばならない。不幸にして、この重要な事業が社會運動家からは餘り注意せられず、却てブルジョア教育家や社會事業家によつて大いに採用され實行されて來たことは、まことに残念でならない。茲に注意せねばならぬことは、兒童に對して無政府

主義などといふ特殊名稱や特殊思想を注入する必要がないといふことである。否、それは必要でないばかりか、却て弊害多きことである。われわれは唯だ汚れざる自然のさまを正視することを教へればよいのである。兒童はたゞ自然の兒として成長せしめればよいのである。それがなかなか難かしい。むづかしいが爲さねばならぬ。これは無政府主義實現の第一歩だからである。

幼稚園と同様にブルジョア家庭に喜ばれる少年團や、軍國主義者に歡迎された青年團の仕事も、之を案出したのは天才フリーエで、彼は新社會人養成の重要な手段として之を考へたのである。即ち協同心・公共心・勞働心を養成する爲に、かうした組織を發案したのである。農本的無政府的社會を理想としたフリーエにとつて、それは最も重要な一條件だつたに相違ない。

次に讀者の注意を促したいことは、無政府社會實現のために地理學的觀點に基き重點主義を探ることである。昔の理想家達は試験的共產村の建設に熱中した。蓋し彼

等はその模範的建設によつて、一般人を誘導しようと思つたのである。このユトビヤン社會主義者の努力は、いづれも不成功の形を以て消滅したのであるが、併し之を以て全然失敗だつたとは言へない。所謂科學的社會主義や勞働運動が後日漸やく盛んに流行するに至つたのは、實はユトビヤンの先驅に一般人が深く感動した、その賜ものであつた。この事を一般の社會思想家も運動者も忘却してゐるのである。マルクスやエンゲルスの如き輕薄な野心家になると、その恩人であるべきユトビヤンを輕蔑さへしてゐるのである。而も惡貨は良貨を驅逐するといふグレシャム法則は社會運動の上にも現はれて、墮落したマルクスの社會主義は高貴純情なるユトビヤン思想を驅逐して、遂にはボルシエビキの如き獨裁制度を建設して而も社會主義の名稱を冒瀆するに至つたのである。われわれの思想實現には大いにユトビヤンに學ぶべきところがあると思ふ。これを現代に生かし、これを現社會内に應用して、新社會への候補禮を建設すべきである。

私の言ふ地理的重點主義といふのは、或る地方にわれわれの努力を集注して、先づ現代社會内に可能な最大限な自由協同社會を實現し、それに依て他地區の一般人を誘導し、且つ隣接地區内に細胞の繁殖を計畫するのである。それには地政學的觀點に基いて獨立自治の社會生活を建設するに最も便利な最も可能性の多い地方を選択することが第一要件となる。そして、其處に農民協同組合と信用組合と消費組合と生産協同組合とを建設し、その各組合の融通機關として信用組合を相互銀行に改造し、若し信用組合の改造が不可能な場合は新たに相互銀行を創立し、交票を發行して生産者と消費者との融通を圓滑ならしめ、且つ資本主義社會又は社會主義社會の貨幣價の變動から生ずる損害を免れる方法を講じなくてはならない。これは現代の國家の經濟權力から人民大衆を救出する最初の方法であり、新自由社會建設の第一礎石を据えることである。今日に於てはわれわれは貨幣を發行する權利を興へられてゐない。われわれの發行する交票は

組合間に私に通用する交換手段に過ぎない。併しわれわれの團體の自己の經濟的基礎に依存する流通手形としての交票は、國家貨幣價の變動に影響されることの無い堅實性を持つてゐる。恐らくこの交票の魅力と威力とに接する一般大衆は、たゞこの一事によつてもわれわれの建設工作に共鳴して來るであらう。

私は今この相互銀行組合若しくは相互信用組合の組織を詳説する餘白をこゝに持たないが、それはブルードンの『人民銀行』の定款によつて大體は諒解されるであらう。假りに、かうした綜合組織が山梨縣、及び長野縣一體に普及して、ここに國家經濟から半獨立した平和境が成立したと假定せよ。それは直ちに南の隣接地静岡縣に波及し、北方の隣接地新潟縣にも弘通するであらう。かうなれば、日本々島の中央部に完全な獨立社會を建設することは容易である。かくて日本本島が東北部と西南部とに完全に切斷されれば、兩地方とも自然に獨立自治の新組織を樹立せねばならなくなるであらう。

の融通を圓滑ならしむべく相互信用組織を確立し、その取引を便にし確實にするために、組合員間に流通する交票を發行したと假定せよ。そしてこの信用組合が倉庫業・信託業・仲買業を兼營すると假定せよ。前にも言つた通り、交票は經濟的物資に依存して發行せられるものであるから、國家發行の貨幣の如く經濟的變動によつてその價值に急變を生ずる恐れはない。交票には利子を付けなから、利潤追求慾の対象にはならない。貨幣相場のやうな投機業も起らねば、インフレーションなどは勿論發生しない。されば確實安全な經濟生活を望む眞面目な人民は自然にこの交票を歓迎し、同時に此の新しい經濟生活を羨望するやうになるであらう。かうして健全な民衆が翕然としてわれわれの協同社會に参加して、右の四縣地區の大部分が平和裡にこの中に網羅されたと假定せよ。強權國家が之を喜ぶと否とに係はらず、この輝かしい事實を無視する譯には行かぬ。いな全國の大衆は自ら舉つてこの新社會に合流せんことを希ふに至るであ

南方は静岡縣の太平洋岸の清水港を控え、北方は縣の日本海岸最大の新瀉港を領する山梨・長野・新潟・静岡併合地帯は、地政學的に立派な自給自足態勢を具備してゐる。この地域に特に有利な防衛力を興へるものは山岳重疊の地形である。これからの平和社會、自立自給社會を經營するには先づ第一に地理的環境を選ぶ必要がある。右の如く四縣合同の社會は、經濟的には海あり山あり大平地あり、この地域にあつて自給生活に必要なものを何でも十分に豊富に備へてゐる。また發電水力の源泉を多量に有するこの地方は、自由に豊かに農村電化を實行し得る。殊に今後種々な理由によつて發展するであらうところの洞窟工作の爲めに殆んど無限な勝地山腹を持つてゐる。富士山麓の南面には今後洞窟都會が開發され、穴居文化が展開するかも知れない。

それは兎に角、最初一縣の或る地點に於て、農民協同組合や、工業協同組合や、その他様々な消費者協同體と生産者協同體と運輸・通信協同體等が聯合して、相互間

の融通を圓滑ならしむべく相互信用組織を確立し、その取引を便にし確實にするために、組合員間に流通する交票を發行したと假定せよ。そしてこの信用組合が倉庫業・信託業・仲買業を兼營すると假定せよ。前にも言つた通り、交票は經濟的物資に依存して發行せられるものであるから、國家發行の貨幣の如く經濟的變動によつてその價值に急變を生ずる恐れはない。交票には利子を付けなから、利潤追求慾の対象にはならない。貨幣相場のやうな投機業も起らねば、インフレーションなどは勿論發生しない。されば確實安全な經濟生活を望む眞面目な人民は自然にこの交票を歓迎し、同時に此の新しい經濟生活を羨望するやうになるであらう。かうして健全な民衆が翕然としてわれわれの協同社會に参加して、右の四縣地區の大部分が平和裡にこの中に網羅されたと假定せよ。強權國家が之を喜ぶと否とに係はらず、この輝かしい事實を無視する譯には行かぬ。いな全國の大衆は自ら舉つてこの新社會に合流せんことを希ふに至るであ

らう。もし暴力を以てこの眞の民主的社會を破壊しようと企てるものがあれば、それこそ人道の敵として萬民悉く立つて自由生活防衛の陣に参加するであらう。

中部日本と同時に、四國、九州、北海道から、中國地方、關西地方、北陸地方、東北地方と相次いで、自由自治の眞民主社會が成立し、更にそれ等が聯盟して全國的中央委員會を構成し、一先づわれわれの理想に近い新生活が實現されたとして、われわれの仕事はそれで終了したと言へるであらうか。否々、われわれの社會を構成する人間は毎日新らしく生れつゝある。社會は常に流動して停止する時がない。一定の型の中に何時までも留めて置く譯には行かない。生々發展するわれわれの社會には、新らしい無明を懷いた兒童が絶間なく生れて来る。人生のドラマは光明と無明との交錯によつて展開される。たゞ併し、平等・自由の社會に於ては、この明暗・苦樂の交錯が自然の姿に於て展開し、同じ人生の悲喜劇にしても、人爲の痕を留めなくなるであらう。さす

われわれの無明に對する戦ひも自ら期かに行はれるに相違ない。

共學バンフレット

- 第一 土の權威 (石川三四郎著近再刊廿圓)
- 第二 土民藝術論 (同二十圓)
- 第三 無政府主義とサンジカリズム (同二十圓)
- 第四 原始生活の回復 (同二十圓)
- 第五 辯證法的唯物史觀の批評 (十五圓)
- 第六 農民の福音 (赤羽巖穴著發禁品切)
- 第七 新らしき時代『タロポトキン著品切)
- 第八 進化と革命 (ルクリユ著品切)
- 第九 没落の代議政治 (タロポトキン著品切)
- 第十 無政府主義研究 (五十圓)
- 第十一 社會美學としての無政府主義 (二十圓)
- 第十二 近世土民哲學 (三十圓)

御注文は前金で、拂込は振替で。

東京都世田谷區船橋町七七四

共學社

振替東京七四八九一

昭和廿四年八月十五日印刷 定價二十圓  
昭和廿四年八月二十日發行

著者兼 發行者 石川三四郎

東京都千代田區神田小川町二ノ十二  
印刷者 小島順三郎

東京都世田谷區船橋町七七四番地

發行所 共學社

振替東京七四八九一